

松島里海バスケット

①松島をテーマにした経緯

(発端は長年お世話になった漁師さんの言葉)

震災後、水中にいろんなものが沈んでいるし、藻場が見つからない。魚もとれない。



東日本大震災(2011)の津波被害が陸上だけでなく、**海中にも甚大な被害**を及ぼしていることを調査によって確認。

観光・漁業が主の**松島の復興**のためには
海の生態系回復＝藻場づくりが必要

②松島での藻場回復活動一例



モニタリング



イベントの開催



地元高校生への教育

③様々な主体の参加・コンソーシアムの必要性

藻場回復活動を通して、様々な主体とかわるようになった。

松島町役場、松島高校、松島地区漁業組合、東北工業大学、大学の環境サークル、水族館、旅行会社 など

1つ1つの活動から得られる結果を恩恵(フルーツ)と見立て、**持続可能にすること(バランス)**が最も重要



松島里海バスケットイメージ

住民の意見を言う場所・検討する場所が必要であり、
コンセンサスを得る機会が必要＝**コンソーシアムの設立**





ODYSSEY
NATURE JAPAN

HOPE
Higashimatsushima
Organization for
Progress and
Economy, Education, Energy

東松島BLUE LANDプロジェクト

海底の底質
改善による
藻場再生

多様な
主体者との
連携

海洋教育



団体名:一般社団法人 東松島みらいとし機構(HOPE) (宮城県東松島市)



現状の課題・背景

アマモをはじめとした藻場の減少と地域の海への関心の希薄化が進んでいる。

七尾湾は風光明媚な景観を有し、希少な生物が生息する藻場環境を抱える重要な里海である。近年は高水温などの影響でアマモをはじめとする藻場の減少が進み、海への関心の希薄化、保全活動の担い手不足、多様な関係者の連携不在が課題となっている。

根本原因の分析

地域の海への関心の希薄化が引き金となって悪循環が発生している。



震災を機に、地域住民、観光事業者、漁業者 行政が連携した里海づくりに取り組む

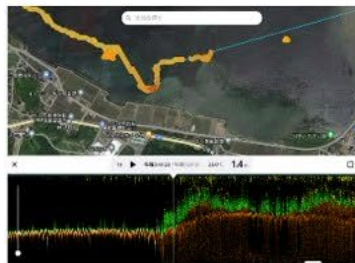
七尾湾里海づくりビジョン

七里海づくりのビジョンについて関係者を集めて会議を開催し、「七尾湾里海づくりビジョン」として取りまとめる。



地域参加型モニタリング

地域参加型モニタリングの体制について地域の観光事業者や漁業者の協力を得ながら実施する体制を構築する。



里海インタプリターの育成

七尾湾の自然環境、里海の価値、保全活動の重要性を地域住民や観光客に伝える「里海インタプリター」を養成する。



伊勢志摩国立公園は、民有地が96%以上。
人と自然の関わりを知ることができる世界的にも珍しい国立公園です。

日本の里海

～三重県鳥羽市における地域資源としての
自然環境・共生文化・生物多様性利活用モデル実証事業～

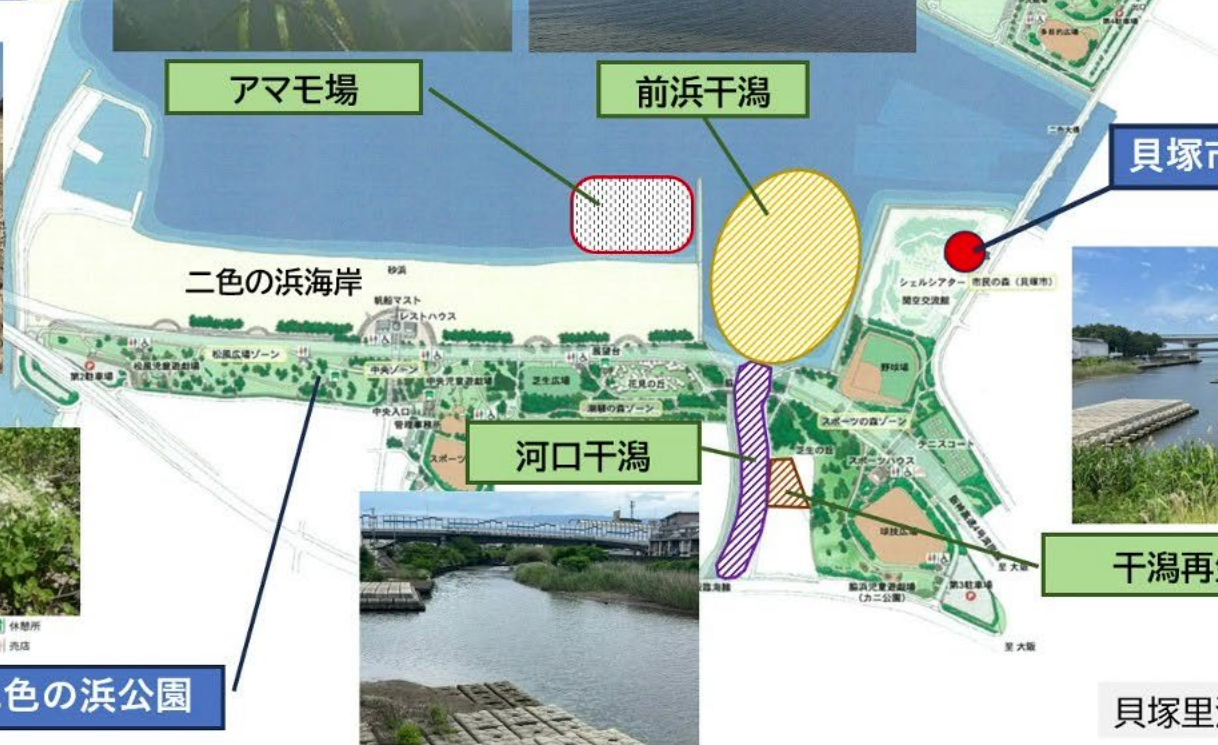
国立大学法人三重大学・一般社団法人相模海女文化運営協議会（相模DMO）・鳥羽商工会議所
鳥羽市・漁業と観光の連携促進協議会・鳥羽市教育委員会・菅島の未来を考える会
鳥羽市水産研究所・鳥羽市立海の博物館



二色の浜海岸地域における持続的な生態系の保全と里海ネットワーク構築事業



大阪府営二色の浜公園



里海づくりのための3本柱

里海(モニタリング)

博覧官連携

地域・民間企業等の参画



干潟再生地(わんど)

貝塚里海づくり未来協議会



尾道東部漁業協同組合・尾道市 松永湾の再生・利活用に向けた新たな里海創生プロジェクト

地域の概要及び課題

【地域の概要】

- 松永湾は尾道市東部に位置し、瀬戸内海国立公園に含まれる海域。
- アサリの産地として知られ、かつては潮干狩りでも有名
- 湾中央にはアマモ場もあり生物多様性に富んだ漁場であった。

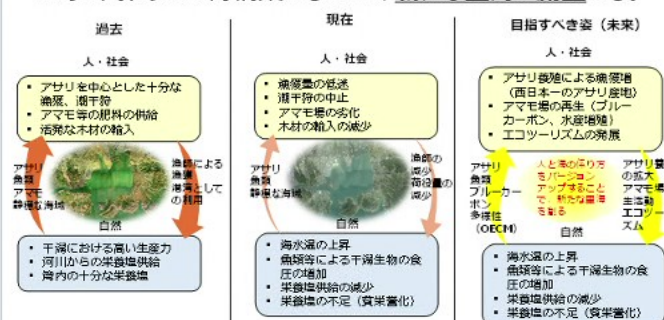


【課題】

- 塩田閉鎖後は埋立てが進み干潟面積が減少、海水温上昇や食害もあり、アサリの漁獲量が激減。
- 潮干狩りで海と人が繋がる里海としての姿も減退。

プロジェクトで目指す将来の姿

- 里海が減衰した理由を客観的な根拠をもとに把握しながら、人と海の間わり方を再構築することで、**新たな里海を創生**する。



プロジェクトの実施体制

- 産、官、学、金、民が連携し、プロジェクトを推進

プロジェクトチーム

プロジェクト実施主体：尾道東部漁協、尾道市



クニヒロ株式会社



復建調査設計株式会社
FUKKEN CO., LTD.



福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY



広島銀行



おのなび



尾道観光協会

連携先・巻き込み対象

小中学校・大学

企業

沿岸住民

観光客

プロジェクトの主な取組内容

① 干潟の生産力向上

- 地元企業と協働したアサリ再生活動（網張や底質改善等）を展開し、尾道アサリを復活させる。



② アマモ場の保全・再生

- 松永湾におけるアマモ場の実態を把握するとともに、アマモ場を保全・再生するための播種等を実施する。



③ エコツーリズムの実装

- 尾道の観光地としてのブランドに里海の要素を加え、松永湾の自然を活かしたエコツアー等を企画・実装していく。



④ 豊かな里海 尾道ブランドの構築

- 尾道里海協議会を設立し、関係者の連携体制の構築や普及啓発等を行うとともに、各活動が経済的にも自立し、継続的に実施するための資金調達方法等を検討する。



科学的な調査や研究により示された原因や対策を最大限に活用



博多湾から始める沿岸と流域がつなぐ人の営みと自然調和 一般社団法人ふくおかFUN



自然と人のつなぎ役 Translator

海のために行動を



海のために対話を



海のためにポジティブを



八代海等沿岸域における産官学民金連携によるアマモ場再生及び利活用による里海づくり事業 ～未来に続く里海を目指して～

団体：肥後銀行/公益財団法人 肥後の水とみどりの愛護基金

活動実績

- 2003年より芦北高校を中心に漁獲量減少とアマモ場の関連性について研究を開始。以降、20年以上アマモ場の再生活動に取り組んできた。
- 昨年度より、芦北高校、芦北町、芦北町漁業組合、鹿島建設、肥後銀行、公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金の6者が連携し、アマモ場の再生、ブルーカーボンの創出及び環境教育等の取り組みを実施。

アマモ場再生活動



出前授業



連携協定締結



クレジット取得



地元高校生との連携による森里川海連環の取り組みを通じた地下水とアマモ場等の
保全・再生、伝統漁法（観光うたせ船）のエコツーリズム化による存続

